

令和5年12月八峰町議会定例会会議録（第3日）

令和5年12月15日（金曜日）

議事日程第3号

令和5年12月15日（金曜日）午前10時開議

第1 会議録署名議員の指名

第2 日程の追加について

第3 一般質問

追加日程第1 議案第96号 工事請負契約の締結について

追加日程第2 議案第97号 令和5年度八峰町一般会計補正予算（第8号）

第4 発議第11号 安全・安心の医療・介護実現のために人員増と処遇改善を求める
意見書

第5 常任委員会の閉会中の継続審査について

第6 議会運営委員会の閉会中の所掌事務の調査について

第7 常任委員会の閉会中の所管事項の調査について

出席議員（11人）

1番 笠原吉範	2番 伊藤一八	3番 奈良聡子
5番 水木壽保	6番 菊地薫	7番 腰山良悦
8番 見上政子	9番 須藤正人	10番 門脇直樹
11番 山本優人	12番 皆川鉄也	

欠席議員（1人）

4番 芦崎達美

説明のため出席した者

町長 堀内満也	副町長 田村正
教育長 鈴木洋一	総務課長 和平勇人
税務会計課長 成田拓也	企画財政課長 高杉泰治
福祉保健課長 石上義久	教育次長 山本節雄

学校教育課長	山 内 章	産業振興課長	山 本 望
農林振興課長	堀 内 和 人	建 設 課 長	浅 田 善 孝
農業委員会事務局長	内 山 直 光	生涯学習課長	今 井 利 宏
あきた白神体験センター所長	菊 地 俊 平	防災まちづくり室長	工 藤 善 美

議会事務局職員出席者

議会事務局長	佐々木 高	議会事務局庶務係長	須 藤 佳奈子
--------	-------	-----------	---------

午前１０時００分 開 議

○議長（皆川鉄也君） おはようございます。

昨日に引き続き、４番芦崎達美君から体調不良による欠席届が提出されておりますので、ご報告いたします。

傍聴者の皆さん、最終日まで大変お疲れ様でございました。よろしく願いをいたしたいと思います。

ただいまの出席議員数は１１名です。定足数に達しておりますので、これより会議を開きます。

日程第１、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、八峰町議会会議規則第１２４条の規定により、７番腰山良悦君、９番須藤正人君、１０番門脇直樹君の３名を指名します。

日程第２、日程の追加についてを議題とします。

議事日程の追加につきましては、議会運営委員会に諮問し意見を求めていますので、その結果を議会運営委員長より報告願います。水木議会運営委員長。

○議会運営委員会委員長（水木壽保君） おはようございます。議会運営委員会の委員長の水木でございます。

ご報告申し上げます。

当委員会では、本日、議長同席のもと、議会運営委員会を開催し、議事日程の追加について協議いたしました。

その結果、議案第９６号と議案第９７号を本日の日程に追加し、議題とすることに決定いたしましたので、ご報告申し上げます。

○議長（皆川鉄也君） お諮りします。ただいまの議会運営委員長報告のとおり、議事日

程を追加し、議題とすることにご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長（皆川鉄也君） 異議なしと認めます。したがって、議会運営委員長報告のとおり議題とすることに決定しました。

日程第3、一般質問を行います。

順番に発言を許します。11番山本優人君。

○11番（山本優人君） おはようございます。議席番号11番山本でございます。

通告に基づき、一般質問いたします。

はじめに、巡回バスの運用について。

昨年10月から運行されました。されてから1年経過しました。人口減少が進む当町が現状の運行体制で維持できるのか、また、運行に関する利用者からの不満に対し、どう対処するのか、利用実態を聞いて質問するものであります。

八峰町は行き止まり集落が多い地域にもかかわらず、ルート設定に関して、現在の環境のもとでは最良のルートであると思いますし、何ら異議あるものではありません。しかし、基本的な巡回バスの運行の考え方としては、行政が直営する場合には利益を目指す民間の事業者と異なり、その採算を度外視した事業での運行経費のほとんどを町が負担して行うことから、町民のサービスが目的であり、そのサービスにおいて町民の間に不公平感があってはなりません。

町が秋北バスの乗り入れをやめ、町が自ら運行する巡回バス事業を全町民の負担で運行する方法は、全町民が町内であれば一律の定額料金で乗り降り自由に移動できる手段をつくることであることとあります。それが町内にある診療所、金融機関、商店、温泉施設などを利用すること、町民が稼いだ金は町内で使うことが町内での資金循環と人の移動に伴う地域のにぎわいをもたらす、町の活性化に繋がることになるとは思いませんか。

自分は、町内であれば100円で誰でもどこにでも自由に乗り降りできるバスとの認識と捉えていました。それが地域によって距離に関係なく一律の定料金の設定で能代にも往復できる環境が整い、高齢者が免許を返納しても移動が可能になるほか、利便性の高まるものとして期待していたのですが、残念ながら利用者区分、すなわち町民の間に差を設けたことが利用者間に大いなる不満をもたらしていること、住民間の感情対立に発展していることを認識しているのでしょうか。

巡回バスの決定もすぐに八森地域を含む無料区間に該当しなかった巡回バス利用者数

人に聞いたところ、「なして同じ町民なのにおらだば100円、あらんどだばただと、おがしぐねえが」と、「巡回バスだもの同じでねえば駄目だべ」と意見され、会うたびごとに言われます。

巡回バスの目的は、公共交通機関が少なく、移動不便な町内を一律の定額料金で自由に乗り降りできる行政サービス事業であるべきことから、運行して1年たった、1年間の利用者数、移動の目的など、移動の実態はどうだったのか。運行ルート、時間、料金等に係る評価をどう捉えているのか。運行時間、本数、料金の意識はどう思っているのか。そして、今後どう動く意向なのか。さらに満足度向上に向けた運行を維持、確保、利便性向上及び利用者増加に向けた改善や見直しを考えているのか、質問いたします。

次に、町の魅力等の開発について。

関係人口・交流人口の拡大は、地域に何度も訪れて関わりが強くなっているうちにその地域の親しみや思いが深くなり、将来的には定住化に繋がるとの考えで進めている取り組みです。最近では地域の人との関係性を築こうとしない土地居住者も多くはなっていますが、ふるさと納税などの影響もあり、実際に気になった地方に旅行に行ったり、地域の祭りに参画したりという動きが見られるようになりました。必ずしも移住は必要ではないですが、まずは関係人口として地域の関わりを深めていくことが大切であると考えます。

町として、観光で来る人に次に訪れる時には住民との交流できるイベントに参加の機会を設けたり、ふるさと納税で応援する町を旅先に選ばれる町に、そして町の特産品を買うきっかけになるようにしなければなりません。私たち町民ができる行動は、興味持てる場所をつくることのために地域の宝の発掘、あるいは特産品開発づくりに参加や協力することであると考えます。

持続できる町の将来のためには、魅力あるスポットや特産品、キャンプ、サイクリング体験など体験メニューや、お土産品の開発による町への関心と情報発信を高めることが重要であると考えます。これから迎える新年度にあたり、町の魅力発信の取り組みの考えを質問いたします。

以上2点であります。よろしくお願いいたします。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの11番議員の一般質問に対し、当局の答弁を求めます。
堀内町長。

○町長（堀内満也君） おはようございます。山本議員のご質問にお答えいたします。

はじめに、「巡回バスの運用について」であります。

まず、1点目の「利用者数、移動の目的等」についてであります。昨年10月から本格運行いたしました巡回バスの今年9月までの1年間の利用者数につきましては、いずれも延べ人数で、大久保岱・岩子・畑谷ルートが1,785人、大信田・石川・強坂ルートが1,281人、内荒巻・石川・比八田ルートが826人、岩館・目名潟ルートが4,489人、海岸沿いの岩館・目名潟・本館ルートが2,813人となっており、合計で1万1,194人が利用しており、1カ月当たりの延べ利用者数は933人となっております。

移動の目的等につきましては、往路である道の駅みねはま方面への運行に関しては、各路線とも多くの方が道の駅みねはまで降車していることから、能代市への通院や買い物への利用が考えられるほか、復路の岩館方面への運行を見ると、ハタハタ館への利用も増加しております。

また、「運行ルート」につきましては、海岸沿いの岩館・目名潟・本館ルートを利用している一部の方から、本館停留所で乗り降りする方がいないことや、役場が土曜日閉庁していることからルートから外せないかという声が聞こえております。

本館停留所や土曜日の役場停留所については、これまで利用者がいないことから、交通空白地を解消するという観点や最適なルート設定などを踏まえつつ、利用者の声を聞きながら、運行の在り方を幅広く検討してまいります。

また、運行時間につきましては、能代厚生医療センターへ8時20分までに到着することを目的に設定したことから、問題はないものと認識しているほか、本数につきましては、往路、復路ともに3本ずつではあるものの、午前便、午後便のバランスは十分に取れているものと考えております。

一方で、料金につきましては、バス事業者から、燃料費の高騰等により運賃改定が見込まれていると聞いており、こうしたことを踏まえ、今後、町としても利用料金の改定について検討していく必要があると考えております。

いずれにいたしましても、公共交通につきましては、環境等の変化に応じ運行内容を変更しなければならない事業であると認識しており、将来的には能代市内までの直通も含めて検討するなど、今後も利便性の向上に一層努めてまいります。

次に、「町の魅力等開発について」であります。

人口減少や少子高齢化が急速に進む本町において、関係人口や交流人口の拡大を図ることは、経済効果を伴いながら人流を創造し、ひいては定住人口の創出、地方創生の実

現へと繋がる大きな可能性を秘めております。

議員ご指摘のとおり、関係人口や交流人口を拡大させ、移住者を増やしていくためには、地域が有する観光資源や強みを再認識し、それを町内外に発信していくことが重要であります。

このため町では、これまでに観光協会や地域おこし協力隊等と連携し、首都圏での観光PRや移住相談会、特産品の開発や販売に加え、民間住宅を移住希望者に向けて改修する空き家改修事業等を継続的に実施しているほか、移住・定住希望者をターゲットにした観光・田舎暮らし体験ツアーや、ユーチューブ等を活用した動画配信事業にも取り組んできております。

また、令和3年度からは、本業に携わりながら田舎暮らしを体験する「半農半X事業」をスタートさせており、この3年で県内外から約30人の方々にご参加いただき、関係人口として地域との関わりを深めております。

さらに、今年度に入ってから、コロナの影響により自粛していた各種イベントが順次再開しており、白神山地の世界自然遺産登録30周年を記念した散策イベントを実施したほか、アワビの里づくり祭りや白瀑神社のみこしの滝浴びも多くの観光客でにぎわったところであります。

しかしながら、八峰町を訪れる観光客の多くは、複数の観光スポットを短時間で回る通過型観光であり、今後、経済効果の高い「体験型観光」や「滞在型観光」、「交流型観光」を推進していくためには、白神山地をはじめとする豊かな自然資源を生かした魅力的な体験・交流メニューの開発や付加価値の高い選ばれる商品づくり、インバウンド需要に対応できる体制づくりが必要であります。

併せて、これまでも交付金等を活用しながら、様々な観光施策や移住・定住施策等を展開してきたものの、膨大な観光情報等があふれる中で他地域との差別化を図るまでには至らず、その効果は限定的であります。

今後、町では、地域住民や地元事業者等を巻き込みながら、既存観光資源の再確認と磨き上げを行っていくとともに、コロナ禍で変化した観光トレンドに対応し、登山やキャンプ等を主体としたアウトドア・ツーリズムを推進していくほか、課題となっている冬季の誘客につきましては、商工会やガイドの会等と連携しながら、「冬キャンプ」や「冬の留山散策」など、雪国ならではの体験メニューの開発に向け検討を進めてまいります。

また、対外的に知名度・注目度の高いサーモン養殖事業や、旧湯っこランドを利活用するリノベーション事業、今年3月にオープンした日本酒の醸造所を併設したカフェなど、地元の若者や民間事業者等が取り組む新規事業を支援しつつ、これらと連携していくことで、魅力的な観光コンテンツや特産品等の開発に努めてまいります。

特に、先日行われました「町づくりと経済の未来を創る協議会」の検討テーマであった特産品の開発については、お土産が観光地の魅力を伝える重要なプロモーションツールであることを踏まえ、町内外から幅広くアイデアを募り、地域ブランド商品の早期開発に向け検討を加速してまいりたいと考えております。

さらに、ほかの観光地においても積極的に情報発信が行われていることを踏まえ、町内観光事業者を対象にしたアンケート調査を行い、ターゲットとする観光客の属性やニーズ等を的確に把握・分析した上で、観光客に対して当町の魅力を効果的かつタイムリーに伝えるため、観光パンフレット等の全面見直しや、今年から試験的に導入している観光イベント等の動画配信の継続などについて検討してまいります。

加えて、今月20日には、株式会社モンベルとアウトドア活動を通じた地域活性化などを目的とした包括協定を締結する予定であり、今後は、この協定を最大限に生かしながら、積極的に地域の魅力を発信してまいります。

○議長（皆川鉄也君） 11番議員、再質問ございませんか。11番山本優人君。

○11番（山本優人君） はじめに、八峰町の人口、約6,300人です。それに対してですね、約1万2,000弱の利用者ということであったわけですが、割るとですね町民1.8回乗ったと、利用したということではありますが、そのほかに月930人程度。当初の予定では月1,000人ぐらいであったと思いますが、まあ人口も減っている中で横ばいかなとは思いますが、これについて町長としては、この実績についてどう判断しているんでしょうか。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの再質問に対し、当局の答弁を求めます。堀内町長。

○町長（堀内満也君） 利用実績につきましては、概ね想定どおりといったところでございます。

○議長（皆川鉄也君） ほかに質問ございませんか。11番山本優人君。

○11番（山本優人君） どのぐらい、町民2回転すればいいのか3回転すればいいのかというのは私も何とも言えないところですが、ただ、今後この900人、まあ当初予定されていた1,000人がですね、月、まあ1,000人が1,200人、1,300人とかう増えてい

けば、まあ順調に使ってるんだなというふうに思うわけですが、なかなか判断が難しいなということでもあります。

これについて増やすという方法は私なりに後で提案したいと思いますが、まず次に、その途中演台に立った時の質問の中に、私は料金差が地域の乗車位置によってですね、無料のところと100円払わなければならないところがあるということで、これを問題にしたつもりですが、その回答が具体的にはまだないわけですが、この辺について町長は聞いてはいると思いますけどもね、改めて私、説明しておきたいと思います。

料金の設定がですね、能代の病院通いを主に考えた偏った考え方から私は出発しているんじゃないかなと。しかもですね、試験運用していた期間は無料で実施してあったわけですね。ですから無料というものに慣れてしまって、100円すら払いたくないというか、100円も出したくないという感情をつくってしまった。実際には値上がりしたのは一番安いところで10円ですよ。で、沼田の人が、まあ一番近い沼田、70円。こういう人方が70円上がるということに対して不満を持つのかなということで、沼田の人とその近くの田中の人に聞いてみました。まあ、ただの方いいに決まっています。ですが、徳のある人だかもしれませんが、「おらだば恥ずかしして同じバスさは乗られね」と、片や100円払って、おらはただだと、それについては非常に負い目を感じるというふうなことを言っていたわけですよ。もちろん、簡単に言うと八森地区の人は100円払うし、峰浜地区のこっちの近い方の人はただ、こういう2つの料金差のある人が同じバスの中に乗ってて、やっぱり金払わないとこ見るとですね感情的になってるわけですね。しかも、もう一つは、まあこれは交通機関の取りやめっていうか、公共交通の仕組みで新路線をつくったがゆえにですね能代の一部を走らざるを得なくて、その住民も拾っていくということで無料にしたという意味は分かりますけども、それにしても、それについてもやっぱり感情的にあるわけですよ。何で能代の人ただだと。ルートはいいけども、やっぱりじえんこは取るべきだべというふうなことはやっぱりあるわけです。その辺を踏まえてですね、これに対して町長として今後、いろんな形での料金改正を考えているというふうなこと言っていました、これについて答弁をお願いします。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの再質問に対し、当局の答弁を求めます。堀内町長。

○町長（堀内満也君） まずはじめに、巡回バスが運行したのが去年の10月でございますけれども、その当時のですね町の情報発信の仕方もちよっとまずかったのかなというふうに思っております。この巡回バス、原則100円でございます。ただのところがある

や有料のところがあるではなくて、原則本来は100円です。こういったPRをちょっと町当局としてはちょっとおろそかにしてるのかなというふうに思っております。

その無料区間があるというのは、議員おっしゃるとおり終点が峰浜の道の駅、ここに行く時だけがそういった料金格差が出るというところでごさいますて、それ以外は基本的には100円だと、そういったところをちょっと周知がちょっとし足りなかったのかなというふうに考えているところでごさいます。

ただ一方で、私も先ほど答弁で申し上げましたけれども、燃料高騰の動きもごさいますし、そしてまた、やはり公共交通というのは環境の変化に応じて見直していかなければならないといったところもごさいますので、そういったところを幅広く検討しながら、今後の在り方をしっかりと進めてまいりたいというふうに考えております。

○議長（皆川鉄也君） ほかに質問ございませんか。11番山本優人君。

○11番（山本優人君） なかなか料金変えるという直接的な答弁はないですけども、そのほかにですね、巡回バスは町民が支えていかなければ成り立たないわけですよ。だとするとですね、私、途中でも言いましたが、町の中巡回すること、で、町の利便性を高め、今3回、3便というか、3便しか回ってないけども、これをもしかしたら増えればですよ、利用者が増えれば、4便でも5便でもした方がいいわけですよ。逆に増えれば利用が増えるということにも繋がるわけけども、それによって町のにぎわいというのが逆に増える。例えば能代に行かなくても、わざわざこの辺にあれ何だ、薬王堂と、ニコット。最近青森の人がすごい利用してますよ、薬王堂。能代の薬王堂よりも一番売れています。地元のコンビニも能代よりこっちのコンビニの方が一番売れてるんですよ。最初、角にできたあたりは秋田県一売れたコンビニと言われてましたけど。そのぐらいまず利用価値がある八峰町なわけですよ。ですから、利便性、まあ便数を多くすれば町中で買い物ができるし、地元の人が稼いだ町を町内でぐるぐる回ると。そのほかに人がぐるぐる入って回るというか、それこそにぎわうということが一つ。

それとですね、その無料になる児童の未就学児はただだと。じゃあ小・中学生はどうなのかという、私は小・中学生にもこれやるべきではないかな。まあできれば高校までやってほしいなと思いますけどもね。ていうのは、これは子どもらにも教育だわけですよ。バスを利用できる、何て言う、知識っていうか、まあ行動力っていうか。今の子どもらはみんな親がどこにでも送ってあってですね、人との会話はできねえし、バスはもちろん、その切符さえ買う方法も知らない。そういうふうな環境では非常に、こう何て

言う、独立心っていうか自主性が生まれないと私思うんで、まあ昔、私が初めてバスとか汽車に乗ったのは小学校五、六年です。その頃に一人でバスを乗るってば非常に怖い思いしながらも、勇気を持って振り絞って、例えば岩館まで行くとかですね、そういうふうなことを自ら体験させる機会必要だなと私は思うわけです。そうすることによって自立心が生まれ、独立心が生まれ、自信にも繋がっていく、そういうことが必要だと思うわけです。で、その際、料金、子どもらですから取るわけにいかなくて100円をそれはただにするから、まずこう行ってみれというそういう機会をやっぱりつくるべきではないかなと。それによって子どもらも大いに満足するわけですし、一緒に同乗した高齢者、バスの中の高齢者も子どもらを見て元気になったりするわけですね。それこそが地元のにぎわいとかそういう交流に繋がって、町中が楽しくなるんじゃないかなと私は思うわけです。そういうふうなことからですね、私は高校生以下も無料に。で、町内のそういう施設に買い物でもいいし、岩館の海岸に遊びに行くでもいいしですね、そういうふうにご利用してもらいたいと。能代にばかり行かなくても地元を使ってほしいなというふうに思っているわけです。そういうことから、子ども、まあ高校生以下の無料ということについての考え方について答弁をお願いします。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの11番議員の再質問に対し、当局の答弁を求めます。
堀内町長。

○町長（堀内満也君） 高校生以下の無料につきましてでございますけれども、今、全体的な人数としては先ほど申し上げましたような、1カ月で延べ933人といったところでございますけれども、実はその内訳までは把握していないところでございます。いずれどういった方々が乗ってる、その小・中学生が乗ってるとか高校生が乗ってるといったようなところも全然把握していないところでございます。そしてまた、こういった方々を無料にするといった場合、また予算も関係してくるところでございますので、いずれそういう環境を全部含めてですね、今後しっかりと検討してまいりたいというふうに考えております。

○議長（皆川鉄也君） 11番議員、ほかに質問ございませんか。11番山本優人君。

○11番（山本優人君） まあ小出しにして悪いんですがね、もう2つばかり実はあるんですよ。

もう一つはですね障がい者です。障がい者の方乗るのかというふうに聞かれると私も自信ないんですけどもね、絶対いないわけではないなと。もしその小・中学生も含めて

考えるんだとしたら、障がい者も入れておいていただきたい。

それともう一点はですね、今、子どもの出生が1桁台になってしまった。もうこの10年先、もう小・中学校の統合問題までも出ている状況。そうすると、この学校の送迎バスもかなり無駄っていうか、ボリューム的には考えないと駄目なってくるわけですね。だとしたら、この巡回バスと併せてですね利用できないかというふうな想定も含めて、もうは既に考えていかないと間に合っていないんじゃないかなということを想定しておりますので、その辺について答弁をお願いします。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの11番議員の質問に対し、答弁を求めます。堀内町長。

○町長（堀内満也君） 正に山本議員おっしゃるとおりだというふうに私も思っております。こういったところも踏まえまして、スクールバスと併用できないのか、あるいは例えばですけども、高校までそれを延ばしてやれないのかというところも、まあ検討段階ではありますけども、庁内で指示しているところでございます。まだ具体的に、まあ能代市さんだったり、運行事業者さん、そういったところのとの調整は今後出てくるところではございますけども、いずれにしても学校の統合、そういったところも見据えながら、こちらの運行状況の方につきましてもしっかりと検討してまいりたいというふうに考えております。

○議長（皆川鉄也君） 11番議員、ほかに質問ございませんか。11番山本優人君。

○11番（山本優人君） 1問目については終わります。

2問目に入ってもよろしいでしょうか。

○議長（皆川鉄也君） はい、どうぞ。

○11番（山本優人君） 次に、町の魅力の開発の件ですが、私はまずはじめにですね、あまりにも八峰町、まあ観光する施設とか名所、場所が少なすぎて滞在時間がもうほとんどない、滞在する人がいないというふうな状況なわけですね。ですから、まずその滞在できる、見る場所をまず発見する。まあ発見し、つくるっていうか、そういうふうなところを町民こぞって何かこう、おらほの例えばここはすげえいい所だというふうなところ、まあ各自治会が挙げてもらうとかですね、まあ個人的に誰でもいいわけですが、そういうふうなことを一回募集してみたらどうかなと。で、それから始めたらいいのではないかなと私は思うわけですよ。それをちょっと少しくオーバーに宣伝していけば、ミニスポットなり、そういうことが出てくるんでないかと。で、そういう箇所をいっぱいつくって、これを今度、何ていうか、宣伝していくと。SNSなり、得意のユー

チューブなりに発信してですね宣伝しておくことによって、八峰町、あそこさ行けば、あちゃこちゃこういうふうなところがあるなというふうには知ってもらうことが大切ではないのかなというふうに思います。

それと一番私、前から要望、議員の皆さんの中では割と携帯とか、このSNSを使って早い世代なので、その時にですね、まだ携帯が早く出た時に、東京にいる八峰町出身の人がいっぱいいるわけですね。で、彼ら彼女らに若干の謝礼を出してもいいですから、それを発信してもらい、そのまあ発信者というか、拡散してもらい、そういうふうなふるさと応援団っていう、ああいうふうなことをほかの方では言っていますが、そういう人を募集して使うべきではないかな。それによってこう拡散の範囲が広がる。単に町の職員、町のホームページだけで出してもですね、ほとんど見ない。これはSNSっていうのは友達の繋がりでいくわけですから、そういうふうなことをやっていけば範囲が広がるんじゃないかなというふうに思っていますが、それについての、この発信の仕方ということについてはどう考えてますか。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの11番議員の再質問に対し、当局の答弁を求めます。
堀内町長。

○町長（堀内満也君） 観光PRにつきましては、ちょっと先ほどの答弁とかぶるところもあると思いますが、いずれ動画発信、あるいは観光パンフレットの見直し、そういったところを検討しながら進めていきたいなと思っております。

また、その新たに東京の人をお願いするですとか、そういった外部の方をお願いするとなると、やはりその予算もある程度必要かなというふうに考えるところでございますので、いずれにしても幅広く検討する必要があるのかなと思っております。

そしてまた、一番最初のいろんなまだまだ掘り起こしができてない観光するところが、スポットがあるんじゃないかというところに関しましてはですね、正に私もそのとおりで思っております。また、真瀬の三十釜、非常に有名でありますけれども、まだまだ知名度不足だというふうに思っております。そしてまた、ちょうど町長室にもあるんですけども、滝の間海岸の岩場がぱっと写ってて、ずっとこれ何なのかなと思ってましたら、どうもスフィンクスに見えると。まあ男鹿のゴジラ岩じゃないですけども、そういったところもまだまだ八峰町には隠れた名所になり得るようなところがあるのかなというふうに思っておりますので、今後そういったところの掘り起こしも対応してまいりたいというふうに考えております。

○議長（皆川鉄也君） 11番議員、ほかに質問ありませんか。11番山本優人君。

○11番（山本優人君） あと、歴代町長の悪口を言うわけではないんですがね、町長になると東京での、あれ何と言った、東京の業者の懇談会……企業懇談会とかありますよね。まあ私何回か歴代町長に言ってるんですが、おめ方、ただ懇親会さばかりはまって何して来たったが。人ってどっかの会社と仲良くなって、一つぐらいもう誘致してこえばいいってねえがってしゃべってきたんですがね、まあ今回、まあ町長は、何だっけ、モンベル、誘致はしてるのかどうかっていうところまでは分かりませんが、そういうふうな形で提携をするというふうなこと、非常に頑張ってるなというふうに思うわけですが、今後もああいう企業誘致の際にはですね、ただ懇談会での交流ばかりしてなくてですね、どっかターゲットを絞って、この会社とちょっと下請でもいいですから工場を考えてもらうとかですね、そういうふうなことを是非私はやってもらいたいと思うわけですよ。

それともう一点はですね、やっぱり新しい町をアピールして、まあ八峰町はすごいなと思ってもらえるような事業を入れると。私、特にここの辺でびっくりしたのは、青森県の中泊っていうところあるんですが、ここはですね電子決済を町の中で普及してるとこなんですね。あそこも七、八千人ぐらいの町ですけども、P a y P a yというああいうふうな方法で、高齢者の85%がこれで決済してる。ですから、金を持ってこなくてピッて支払うというふうなことをやってる町だけなんです。で、そうすることによって逆に今度犯罪が少なくなっていくということで、これはすごいなと。考えられない。85%っていうことは、ほとんど町民全部みたいなもんですよ。ほとんど寝てる人も入れて100%ですからね。いや、これはすごいなというふうなことですね、いや、まあそれと同じことすれというわけではないんですが、そういうふうな突拍子もないことで町が脚光を浴びるというふうなこともあるわけですから、それは町長一人だけではなくて課長も自らみんな集めて、いろんな考えないのかなというふうなことを私は期待してるんですよ。まあ前任者を悪く言うわけではありませんが、前の人ですね、課長のことはアイデアは全然期待してないというふうな発言して、愚かしいもんだと。一人ではないでしょうと。やっぱり課長クラスがアイデアと一緒に論議しながら進めていくべきじゃないのかなということで、そういうような進め方で考えてもらいたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの11番議員の再質問に対し、答弁を求めます。堀内町

長。

○町長（堀内満也君）　ちょっとその中泊の電子決済につきましては、ちょっと私も把握しておりませんが、アイデアとしては非常にいいもんだなというふうに今聞いて思ったところでございます。

また、その役場内の話でございますけども、私もいろんな話をこう聞いていく中で、やはりいいアイデアって皆さん持っているところでございますので、当然ながら役場一丸となって、機構改革、あるいは新たな取り組み、そういったところをしっかりと進めていきたいというふうに思っております。

○議長（皆川鉄也君）　11番議員、ほかに質問ございませんか。11番山本優人君。

○11番（山本優人君）　これで最後にしたいと思いますがね、もう一つ最後に、あわび祭りで使っている大型テント、あれ1基。2基だ。1基800万円するんです。たった1日しか使っていない。私はあれをですね何とか活用したいなと。あれやっぱりイベントのために用意したと私は思ってるわけです。だとすると、眠っておくよりは壊れてもいいからやっぱり使う。そう考えた時に、まあ今、冬間近かに迫っていますけども、冬キャンプ用にあれ、何だ、御所の台の球場、あそこにでも張っておけばいい。周りは何だ、網やればある程度は風は和らげるわけですよ。そういうふうな使い方だってあるし、そうすれば冬のバーベキューできるわけですね。場所提供する。ああいう景観の中でバーベキューやるってやつも、ひとつ目新しいかなと思うわけですね。そういうふうなことを考えておりますが、ひとつこのアイデアについて答弁をお願いします。

○議長（皆川鉄也君）　ただいまの11番議員の質問に対し、当局の答弁を求めます。堀内町長。

○町長（堀内満也君）　非常に斬新なアイデアだというふうに思っておりますけれども、あのテントもですね、なかなか人力で張るには非常に難しい大きなテントでございます。やはり設置にはその設置する費用がやはりかかるところでございます。私もあそこだけで使われてるのはもったいないなと思って、いろんな各イベントを主催する実行委員会の方々にも、こういったテントあるよというふうなPRはしてるんですけども、やはりその設置に大型クレーンが要するとかそういったところでなかなかほかで使われていないような、そんな感じになっているんじゃないかなというふうに思っております。

そしてまた冬場の利用ですけども、あのテントがどのくらいの風速に耐えられるのか、そういったところもまだ私もちょっと把握してないところもありますので、設置の可能

性についてはもうちょっと幅広く私も検討してまいりたいというふうに考えております。

○議長（皆川鉄也君） 11番議員、ほかに質問ございませんか。

○11番（山本優人君） ありません。

○議長（皆川鉄也君） これで11番議員の一般質問を終了いたします。

暫時休憩いたします。11時5分前に始めたいと思います。

午前10時51分 休 憩

.....